

FUKUUZU タイムス VOL.5

2022 年度 1 次隊

派遣国:ウズベキスタン

職種:ラグビー

氏名:森谷理央



●近況報告

こんにちは。前回からかなり月日が経ってしまいました。早いもので、任期も残り6ヶ月余りとなってきました。ウズベキスタンも現在は冬真只中で、昨夜タシケントは降雪に見舞われました。今年は暖冬だと言われてきましたが、昨夜から気温は-14℃まで下がり、今後も暫くこのような天気が続くらしいです。寒いことは寒いのですが、福島ほど降雪量は多くないので、正直そこまで警戒はしていないのですが、此方は安全の意識というものが、日本とは大幅にかけ離れているため運転が荒く、交通事故が多い上、スタッドレスタイヤという概念があるかも疑問なので、油断はできません。また、普段買い物をしているバザールにおいては、降雪のため、野菜や果物の供給がストップされており、冬支度を怠ってしまったことを今更ながら悔んでおります。

さて今回は先月に行った地方でのスポットコーチングについてご紹介したいと思います。



ブハラ州立大学男子ラグビー部と。

11 月の下旬から、1 週間ほどブハラ州という場所へ出張に行ってきました。内容としては同州立大学での男女ラグビー部に対するスポットコーチング、そして、小学校におけるラグビーの普及活動といったものでした。まず、ブハラという街を簡単にご紹介させていただきますと、ブハラはウズベキスタンの中では屈指の観光地といえます。イスラム建築と手工芸品を目当てに、シーズン中は世界中から沢山の観光客が訪れます。砂漠地帯に浮かぶオアシスとも言える街ですが、夏は気温が 60 度、冬は-20 度となる非常に過酷な土地です。

1日の流れとしては午前中に小学校を訪問して、各学年の体育の授業にてラグビーボールを使ったレクを通して普及活動を行った後、昼過ぎに大学の練習に向かい、夜には小学生のラグビー教室に出向くといったものでした。

まず、大学のラグビー部の状況としては、当初は中々難しいものがあるなと感じました。

というのも、コーチ、選手共にラグビーに対するモチベーションが低く、ウズベキスタンではよくあることですが、同チームと首都ラグビー連盟との連携ミスもあり、直前までチームと連絡が取れずにいました。練習開始予定時間から30分後、ようやく選手とコーチが来ましたが、気温が一桁台ということもあり、早く帰宅したいといった態度が一様に見受けられました。



基礎スキルの習熟度とラグビーへの意識もそこまで高くなく、どうしたらいいのか頭を抱えましたが、タックルのないタッチラグビーを織り交ぜながら、楽しめる練習内容に変更しました。すると、みるみるうちに選手のパフォーマンスとモチベーションが改善され、本当に驚きました。結果的に2時間以上、寒風吹きすさぶ中で練習をしていたわけですが、練習が終わっても、彼らはまだ練習を続けたいといった様子でした。

普段、タシケントでは、主に所属しているチームの他、代表のB、Cにも行っているのですが、此方も選手たちの意識が低く、悩みの種でした。しかし、今回の経験を通し、頭ごなしに否定するよりも、伝え方次第で人は変わるし、それこそコーチの力量次第だと再認識させられたので、私自身にとっても貴重な指導経験でした。



次回は女子ラグビー部の練習についてお伝えします。